オスマン帝国の衰退

☆**オスマン帝国**：トルコ人の国王(スルタン)がスンナ派の教主(カリフ)を兼ね、多くの異民族を抱える。

1683　**第2次ウィーン包囲**の失敗⇨**カルロヴィッツ条約**(1699)：墺に**ハンガリー**を割譲。

- アフメト3世：23代(1703-30)。

[1]＿＿＿＿＿＿**時代**：宮廷文化の爛熟(らんじゅく)。

1774　**クリム＝ハン国**を露に奪われる。

- セリム3世：28代(89-) 洋式軍隊を創設。

⇨親衛隊(イェニチェリ)が政治介入、改革挫折。

- マフムト2世：30代(1808-)

1821-29 **ギリシア独立戦争**：英仏露が介入。

1826　[4]＿＿＿＿＿＿**全廃**：軍の近代化。

1830- 仏(シャルル10世)のアルジェリア出兵。

☆**アラビア半島**:アラブ人の部族国家が抗争。

1744-1818 [2]＿＿＿＿＿＿**王国**

復古主義の**イブン=アブドゥル=**[2]＿＿＿＿＿＿が

ネジド地方の豪族[3]＿＿＿＿＿＿**家**と結ぶ。

神秘主義、聖者崇拝、オスマン支配を排撃。

☆**エジプト**:オスマン領。マムルーク諸侯が統治。

1798- [5]＿＿＿＿＿＿のエジプト出兵。

- [6]＿＿＿＿＿＿:総督(1805-)

マムルークを全廃、軍の近代化。

1831-40 [7]＿＿＿＿＿＿**戦争**：エジプトが反乱、**シリア**を占領。

⇨仏がエジプトを、露がオスマンを支援⇨両国の進出を恐れる英が介入。

1838　英＝トルコ通商条約：**不平等条約**。

- [8]＿＿＿＿＿＿:31代スルタン。

☆[9]＿＿＿＿＿＿(恩恵改革)。

：**ギュルハネ勅令**(1839)で開始。

軍事・産業・行政・司法の近代化。

1853- クリミア戦争：英・仏の介入で露軍を撃退。

⇨財政破綻。徴税権を担保に列強から借款。

- [10]＿＿＿＿＿＿:34代スルタン。

改革派の宰相[11]＿＿＿＿＿＿**=パシャ**。

1876　[11]＿＿＿＿＿＿**憲法**を制定。

・英型立憲君主政、アジア初の近代憲法。

1877- [12]＿＿＿＿＿＿**戦争**：再び露が侵攻。

⇨スルタンは**憲法を停止**、専制を復活。

☆[13]＿＿＿＿＿＿：立憲派の秘密結社。

⇨軍の内部に拡大。専制打倒を目指す。

1840　ロンドン四国条約：英・仏・露・普。

①**総督世襲**を認め、**シリア**を放棄させる。

②エジプトと列強との**不平等条約**。

- イスマーイール：5代総督(1863-)

1869　**スエズ運河**開通：仏人**レセップス**。

⇨国家財政の破綻(はたん)。英に株式を売却(75)。

⇨英・仏による財政管理⇨**ウラービー革命**(81)



【解答】1 チューリップ　2 ワッハーブ　3 サウード
4 イェニチェリ　5 ナポレオン　6 ムハンマド=アリー
7 エジプト・トルコ　8 アブドュルメジト1世
9 タンジマート　10アブデュルハミト2世
11ミドハト　12露土戦争　13青年トルコ

オスマン帝国の解体

バルカンの正教徒 ⋯ 露 ― 正教徒の独立運動を支援、地中海へ

インドルートの確保 → 英仏

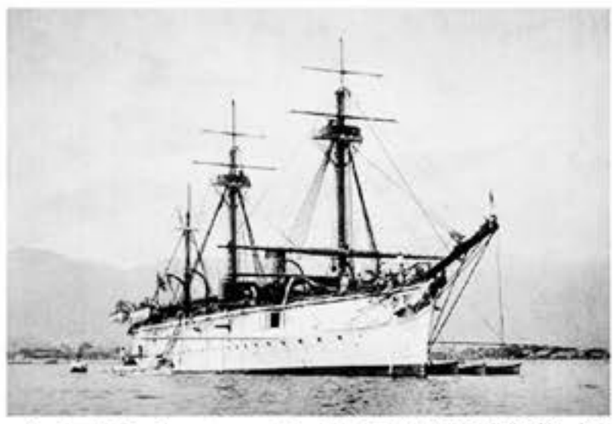
英仏 ⋯ エジプトのアラブ人 ⚔ アラビアのアラブ人 ― イスラーム復興 オスマンから独立


ムハンマド=アリー

エジプトのアラブ人：ムハンマド=アリー
外資導入で近代化 オスマンから独立

アラビアのアラブ人：ワッハーブ王国（サウード家）

問 ワッハーブ派について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。
シャリーア　スーフィズム
サウード家


▲ エルトゥールル号(1863進水)
日本への親善使節を派遣するが、その帰途、紀伊半島沖で嵐のため沈没(1890)。



▲ ミドハト憲法の発布(1876)

問 第一次世界大戦までのオスマン帝国における近代化について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
エジプト　露土戦争
日露戦争

オスマン帝国の改革

タンジマート（恩恵改革）
スルタン専制を維持し、産業・軍事を西欧化。


ミドハト=パシャ

ミドハト憲法(1876)
英国型立憲君主政！

英・仏 ⋯ オスマン家 → ① ★ 立憲派の官僚 ⋯ 民族資本

立憲派の官僚 ⋮ 青年トルコ

青年トルコ ★ ← ② ★


アブデュル=メジト1世


アブデュル=ハミト2世

① ミドハト憲法停止(1878)←露土戦争
② 青年トルコ革命(1908)←日露戦争



セーヴル条約(1920)



オスマン帝国の崩壊

パン＝トルコ主義　　パン＝スラヴ主義

オスマン帝国を分割する

オスマン家 ★ 青年トルコ政権 ⚔ 露

第一次世界大戦 敗戦で崩壊

① ② ③

英・仏 ⋯ ギリシア ⚔ アンカラ政府

独 ― 3B

ムスタファ=ケマル


ムスタファ=ケマル

スルタン制廃止
アナトリアを奪回
トルコ人だけの民族国家を再建

第一次世界大戦から帝政崩壊までのトルコの歴史について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
パン=トルコ主義　アナトリア

① セーヴル条約(1920)
② トルコ革命(1919-23)
③ ローザンヌ条約(1923)

オスマン帝国崩壊とアラブ独立

・**アブデュル=ハミト2世**：憲法停止、専制。露土戦争で敗北。

1908 [1]＿＿＿＿＿＿**革命**：青年将校がサロニカで蜂起◀

⇨アブデュル=ハミト2世退位。[2]＿＿＿＿＿＿**憲法**復活、国会開設。

12-13 **バルカン戦争**で大敗⇨トルコ民族主義の高揚。

☆[3]＿＿＿＿＿＿**主義**：露領内のトルコ民族との連帯。

14- 大戦で独墺と同盟⇨アラブの反乱。英人**ロレンス**が指揮。◀…15 [14]＿＿＿＿＿＿

⇨英・仏がイスタンブルを占領。青年トルコ政権崩壊。 **協定。**

20 サン=レモ会議：英・仏がオスマン帝国分割で合意。◀……16 **サイクス・ピコ協定。**

20 [4]＿＿＿＿＿＿**条約**：連合国とスルタン政府との講和。

⇨英・仏・伊・ギリシアによる小アジアの分割。不平等条約。

（・仏の委任統治領⇨**シリア・レバノン。**

・英の委任統治領⇨**パレスティナ・ヨルダン・イラク。**……▶21-**イラク王国**

19- [5]＿＿＿＿＿＿**軍**が小アジアの[6]＿＿＿＿＿＿を占領。

20-22 [7]＿＿＿＿＿＿が**アンカラ政府**を樹立、領土奪回。

22 トルコ革命：[8]＿＿＿＿＿＿**制廃止、オスマン帝国滅亡。**

23 [9]＿＿＿＿＿＿**条約**：連合国との新たな講和。

⇨セーヴル条約を破棄。アナトリア奪回、不平等条約撤廃。

23- トルコ共和国（首都：[10]＿＿＿＿＿＿）

・**ムスタファ=ケマル**：大統領(23-) [11]＿＿＿＿＿＿の称号。

24 [12]＿＿＿＿＿＿**制廃止**：政教分離。イスラム法の廃止。

⇨婦人解放、**文字革命**（アラビア文字⇨[13]＿＿＿＿＿＿**文字**）

18-[15]＿＿＿＿＿＿**王国**

・[16]＿＿＿＿＿＿：**ハーシム家。**

メッカの首長（シャリーフ）。カリフを称す。

21-イラク王国

・**ファイサル**：フサインの子。

21 英保護下、王位に。

32 独立。英軍は駐留。

01- ネジド王国

・[17]＿＿＿＿＿＿

：リヤドの豪族。

ワッハーブ派。

⇨フサインと対立。

☆◀24 メッカ攻略。

26- ヒジャーズ=ネジド王国

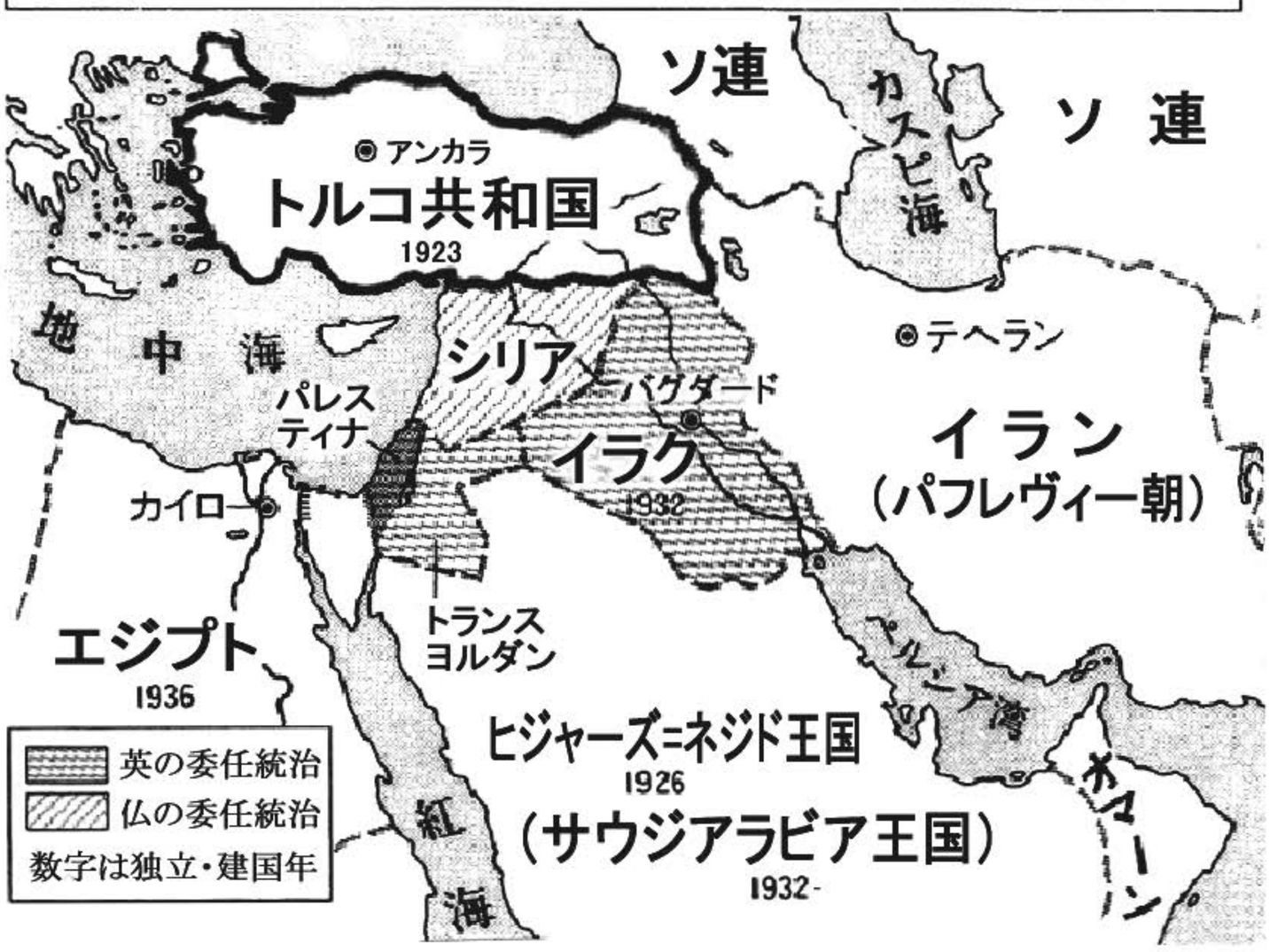
32[18]＿＿＿＿＿＿**王国。**

38 油田の発見。

89- 独、バグダード鉄道（ふせつ）敷設。

1904- 日露戦争。

1914- 第一次世界大戦。



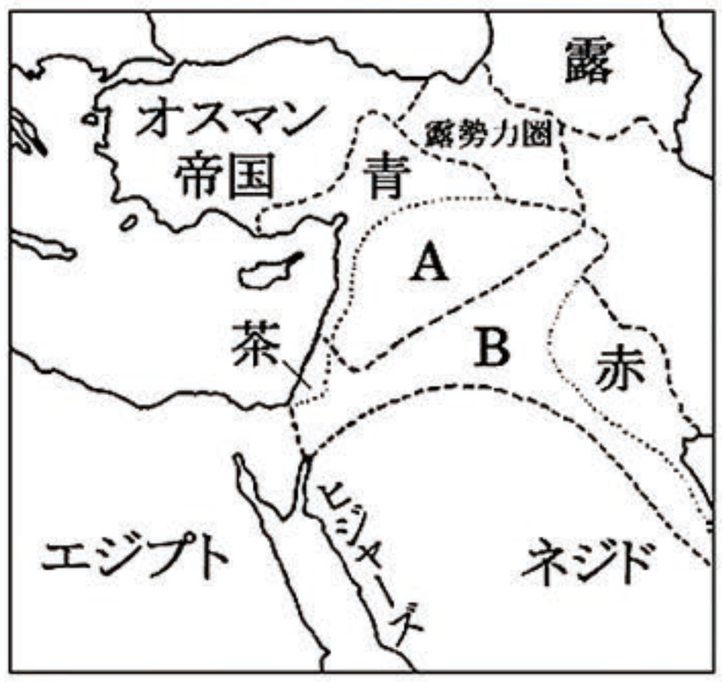


▲ ファイサル王子とロレンス(右)

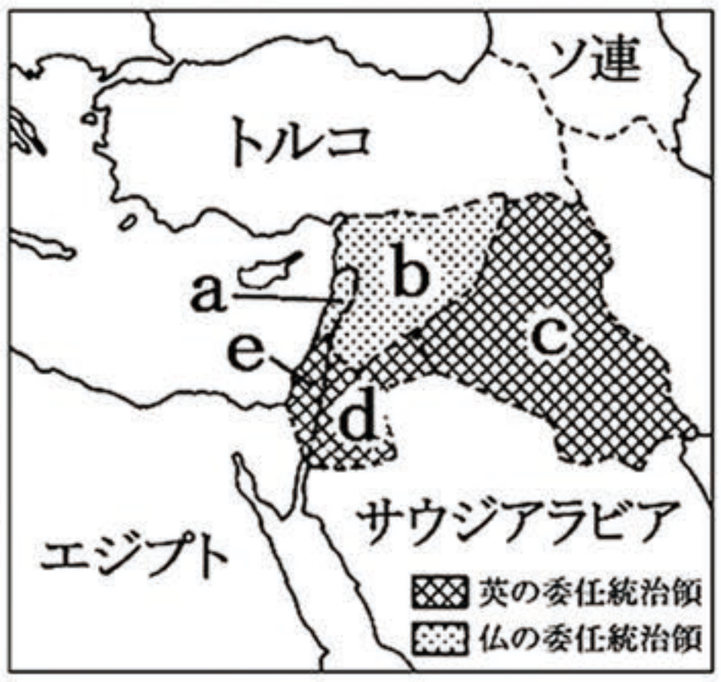
オスマン帝国の分割



① 第一次大戦の開戦時(1914)



② サイクス・ピコ協定(1916)



③ ローザンヌ条約(1923)

a レバノン　b シリア　c イラク
d トランスヨルダン　e パレスチナ

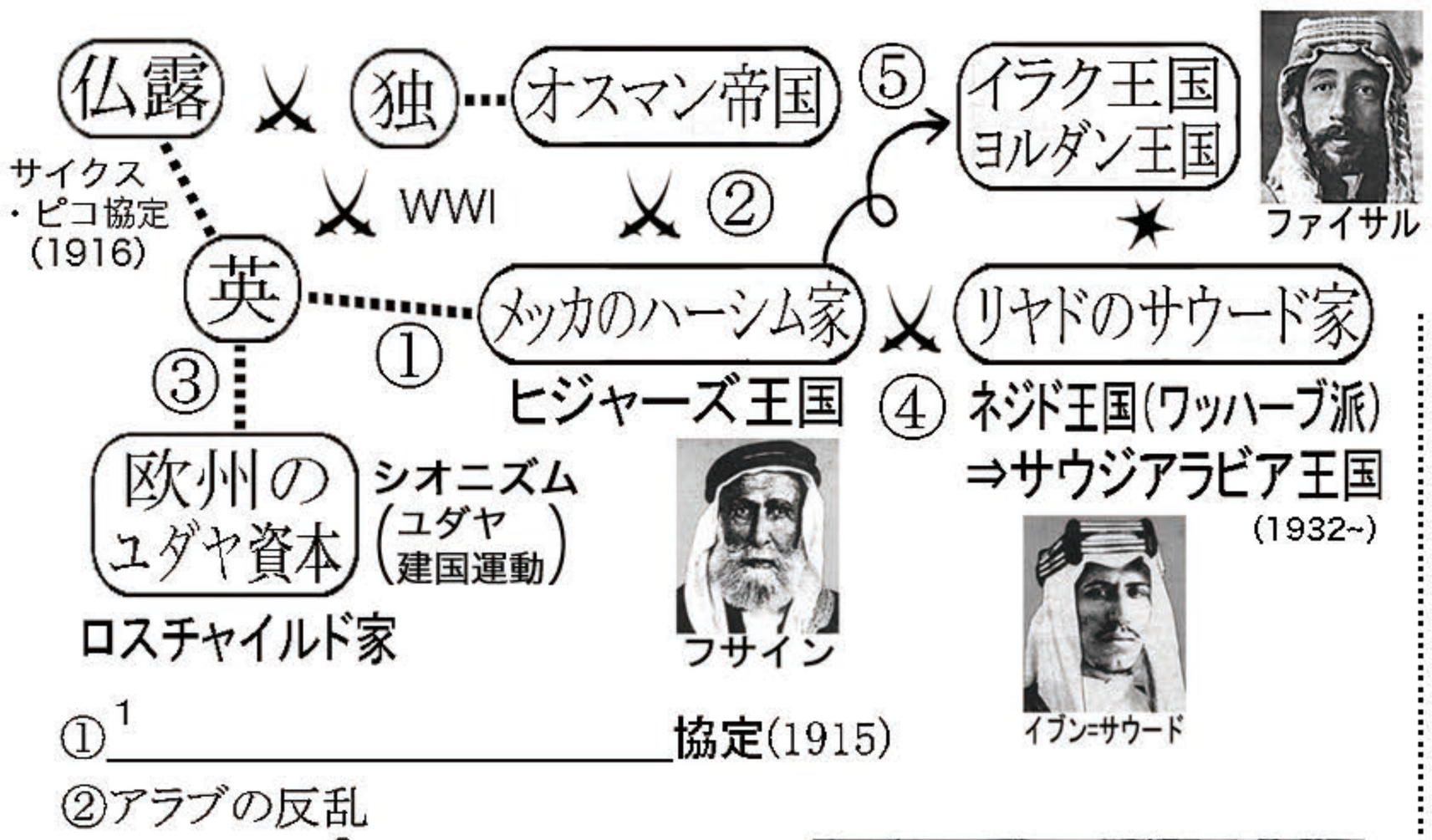
（史料１）[1]＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**協定**(1915)
イギリスは…メッカの太守によって要求されている範囲内で、すべての地域におけるアラブ人の独立を認め、これを支援する用意がある。…アラブ側は、イギリスだけに助言と指導を仰ぐ。

（史料２）[2]＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**協定**(1916)
1. 英・仏は、アラブ首長の宗主権のもとに…アラブ国家あるいはアラブ連合国家を承認し、保護する用意がある。A地域については仏が、B地域については英が、事業および投資の優先権を有す。
2. 青色地域については仏が、赤色地域については英が…直接的、間接的な統治および管理を行う。
3. 茶色地域については、国際管理が行われる。

（史料３）[3]＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**宣言**(1917)
国王陛下の政府は、パレスチナにおけるユダヤ人の民族的故郷(National Home)の設立を好ましく考えており、この目的の達成を円滑にするために、最善の努力を行うつもりです。貴下（注）がこの宣言を、シオニスト連盟にお知らせいただければ、光栄に存じます。（注）英国シオニスト連盟会長W.ロスチャイルド

（解答）1. フサイン・マクマホン
2.サイクス・ピコ　3. バルフォア

※「フサイン」は「フセイン」でも可。アラビア語の母音はa・i・uしかなく、正確には「フサイン」となる。



①[1]＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**協定**(1915)
②アラブの反乱
（英人将校[2]＿＿＿＿＿＿＿＿が指揮）
③[3]＿＿＿＿＿＿＿＿**宣言**(1917)
④サウード家がメッカ攻略。
⑤フサインの2子を王に擁立。
⇒英の**委任統治領**に。

（解答）1 **フサイン・マクマホン**
2 **ロレンス**　3 **バルフォア**



▲ イブン=サウードとF.ローズヴェルト
サウード家は米系石油資本に油田開発権を与え、米国の同盟国となった。

第一次世界大戦以後のアラブ独立運動について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
マクマホン　イブン=サウード

オスマン崩壊とアラブ独立
1 青年トルコ
2 ミドハト
3 パン=トルコ
4 セーヴル
5 ギリシア　6 イズミル
7 ムスタファ=ケマル
（ケマル=パシャ）
8 スルタン
9 ローザンヌ
10アンカラ
11アタチュルク
12カリフ　13ラテン
14フサイン・マクマホン
15ヒジャーズ　16フサイン
17イブン=サウード
18サウジアラビア

イラン・アフガンの植民地化

□ トルコ系

1722　アフガン人が侵攻、**サファヴィー朝**崩壊。★

アフガニスタン
（イラン系パシュトゥーン人）

1736-アフシャール朝／1750- ザンド朝

・**ナーディル=シャー**：トルコ系武将。サファヴィー朝を簒奪。

ムガル帝国へ遠征 → ★ 1739 デリー攻略。

1796-[1]　　朝（首都：[2]　　）

・スンナ派王朝とシーア派住民が対立。露が侵攻(26-)

1828　[3]　　**条約：露にアルメニア割譲。**

37　英との通商条約：治外法権承認➪英製品の流入。

48-　[4]　　**教徒の乱**：シーア派系の教団が反乱。

91　[5]　　**=ボイコット運動**：英企業の専売権に抗議。

：パン=イスラーム主義者[6]　　が指導。

1905-　[7]　　**革命**：国会を開設(06)

➪国王との内戦➪露軍が侵攻。国会停止。

14-　第一次世界大戦➪ロシア革命で、露が撤退。

1747-　ドゥッラーニー朝

・**アフマド=ハーン**：アフガン最初の国王（シャー）。

1826-　バーラクザイ朝

1838-　第１次アフガン戦争

：英軍を撃退➪露に接近。

1878　第２次アフガン戦争

➪英に敗北、保護国に。

07　[8]　　**協商**：イラン北部を露、東南部とアフガニスタンを英の勢力圏に。

1919　第３次アフガン戦争

：英領インドに侵攻。

➪英から外交権奪回、独立。

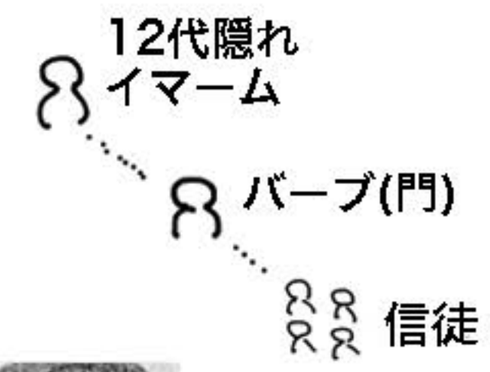
（ラワルピンディー条約）

英領インド帝国

1925-　[9]　　朝（首都：テヘラン）

・[10]　　：軍事クーデタで実権(21)➪国王（シャー）。

➪女性解放。不平等条約の破棄。国名を**イラン**に。




サイイド=アリー=ムハンマド

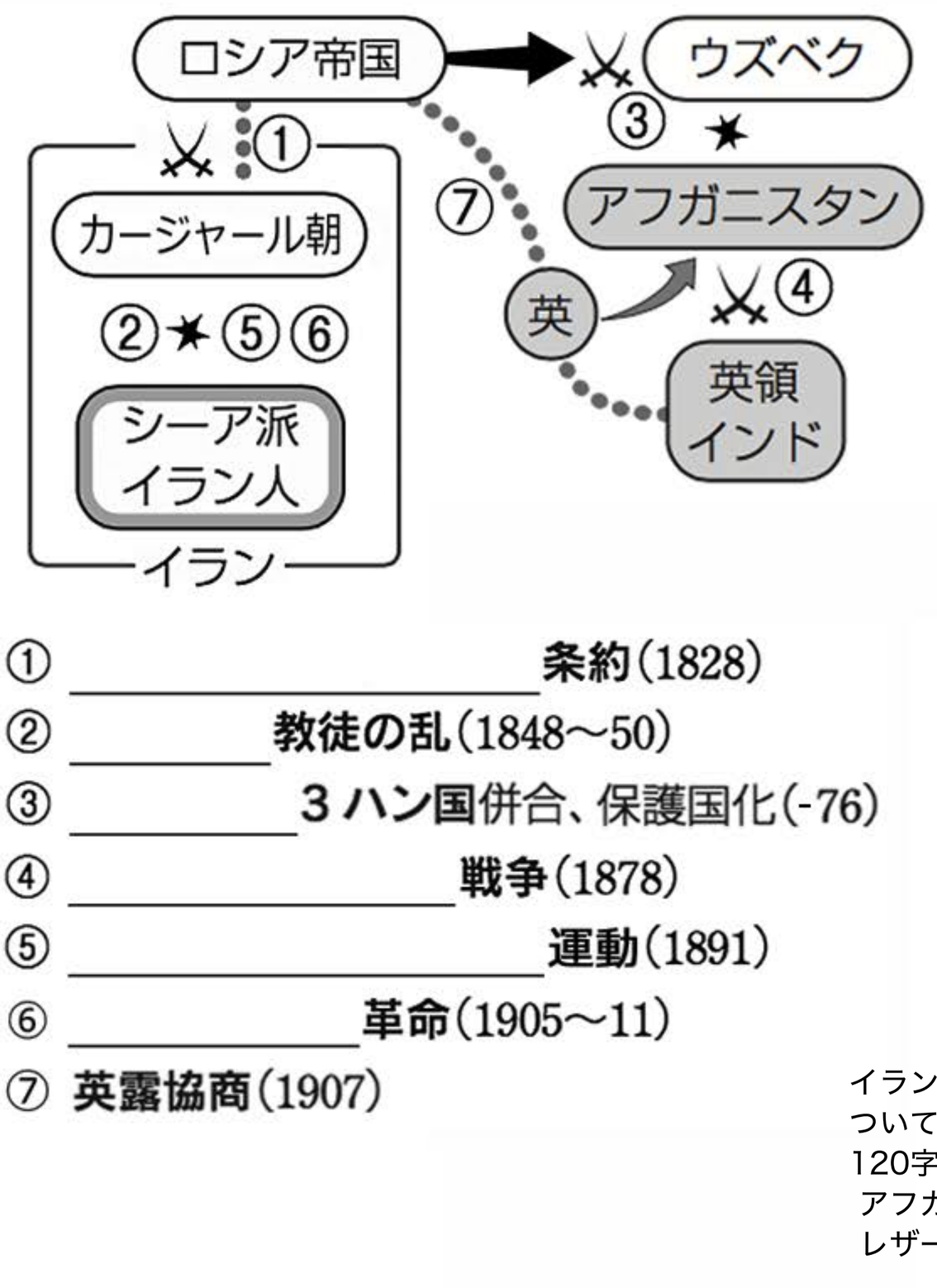
バーブ教団の指導者。信徒から救世主と見なされ、カージャール朝に処刑されたことが、バーブ教徒の乱を招く。


アフガーニー

シーア派の法学者。パン=イスラーム主義を唱え、オスマン帝国スルタンに面会を求めるが、幽閉される。


レザー=ハーン

民族主義者の軍人。ロシア革命に乗じてクーデタに成功し、法学者に推されて王（シャー）となる。（パフレヴィー朝）



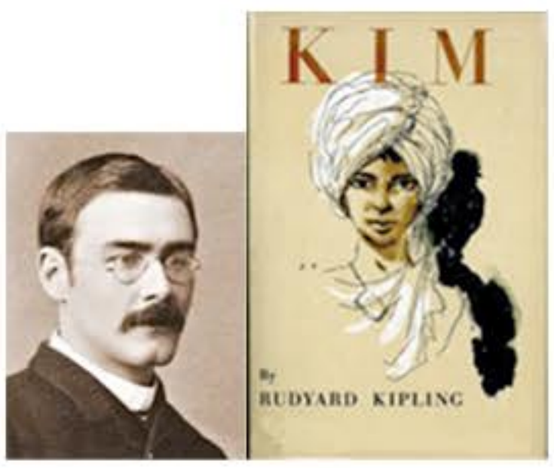
① ＿＿＿＿＿＿＿＿ 条約（1828）
② ＿＿＿＿ 教徒の乱（1848～50）
③ ＿＿＿＿ 3ハン国併合、保護国化（-76）
④ ＿＿＿＿＿＿＿＿ 戦争（1878）
⑤ ＿＿＿＿＿＿＿＿ 運動（1891）
⑥ ＿＿＿＿ 革命（1905～11）
⑦ 英露協商（1907）

① トルコマンチャーイ
② バーブ　③ ウズベク
④ 第2次アフガン
⑤ タバコ=ボイコット
⑥ イラン立憲

イランの近代化と外国の介入について、以下の語句を用いて、120字以内で説明しなさい。
アフガーニー　英露協商
レザー=ハーン

19世紀の英露対立 the Great Game





キプリング『少年キム』
…英領インド生まれの白人孤児が主人公。Great Gameの言葉は本書で普及した。



▲イラン最初の議会(1906)

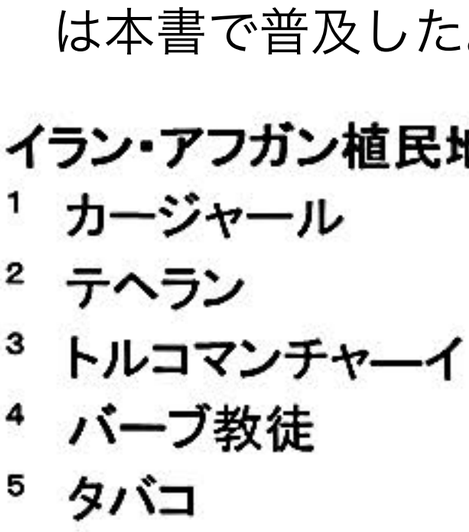
「日本の先帝陛下（明治天皇）は、ロシアを撃破したる後、アジア全般に立憲思想を普及せられた。日本の立憲政体に倣いたる最初の帝国はペルシアにして、トルコがこれに次ぎ、清国は最後に日本に倣いたり。そもそもペルシア、トルコ、及び清国の三帝国は、終始ロシアの圧迫、威嚇の下にありて過去に於いても今日に於いても、依然専制君主国ロシアに配慮し、各自その国内に憲法を布くこと不可能なりき」
（明治天皇崩御を報じるペルシア語の『ハブロル=マティーン』紙 1912.8.15）



第2次アフガン戦争(1878-81)
…英軍がアフガニスタンを占領、バーラクザイ朝を保護国化した。

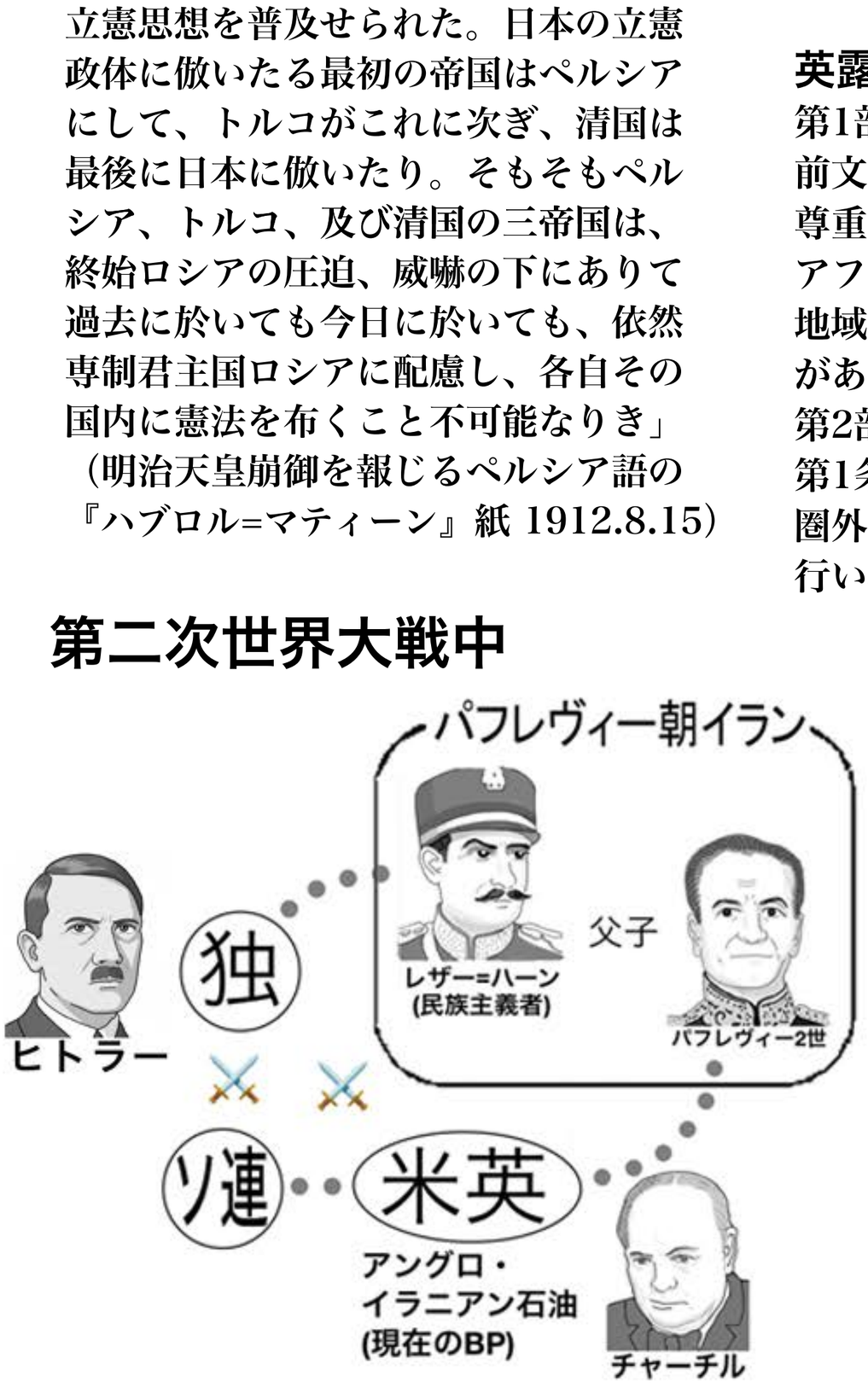
英露協商(1907)
第1部　ペルシアに関する協定
前文：両国はペルシアの領土保全と独立を尊重したうえで、ロシアに接する地域と、アフガニスタン・英領バルチスタンに接する地域には、地理上・経済上の「特別の利益」があると確認する。
第2部　アフガニスタンに関する協約
第1条：ロシアはアフガニスタンを自国勢力圏外と認め、政治関係はすべて英国を通じて行い、代表も送らない。

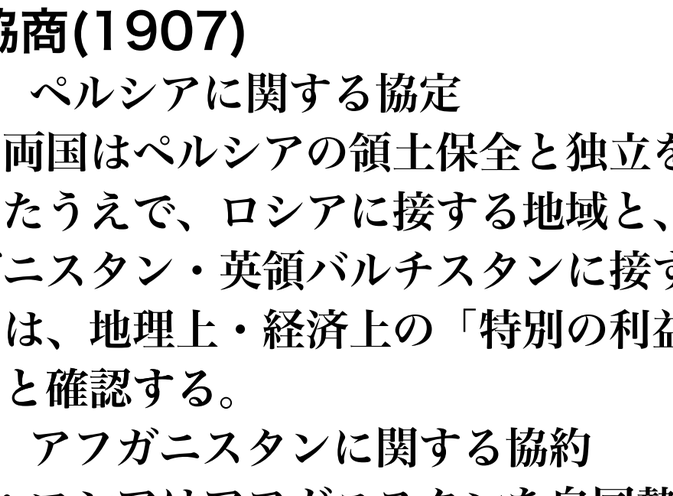
イラン・アフガン植民地化
1 カージャール
2 テヘラン
3 トルコマンチャーイ
4 バーブ教徒
5 タバコ
6 アフガーニー
7 立憲革命 8 英露
9 パフレヴィー
10 レザー=ハーン



ケマルとレザー

第二次世界大戦中





テヘラン会談(1943.11月)
…対ドイツの第二戦線問題を協議。当時イランは英軍占領下にあった。

インドの植民地化

1526-1858 **ムガル帝国**(首都:デリー⇒アグラ⇒デリー)

- [1] ＿＿＿＿＿＿：6代(1658-) 英東インド会社が進出。

⇨三大拠点[2]・[3]・[4]＿＿＿＿＿＿。

⇨仏領[5]・[6]＿＿＿＿＿＿と抗争。

1707 アウラングゼーブ帝の死。ヒンドゥー諸侯の反乱、太守の独立。

1623 アンボイナ事件：**モルッカ諸島**で英蘭が抗争。英はインドに撤退。

1708- マラーター同盟

- デカン高原のヒンドゥー諸侯。ムガル帝国から独立。

1761 デリー攻略に失敗。

⇨ムガル帝国も威信失墜。帝国は首都デリー周辺だけの地方政権に転落。

1744- [7]＿＿＿＿＿＿**戦争**◀1740[8]＿＿＿＿＿＿**継承戦争**。

：英が仏の総督**デュプレクス**を破る。

1757 [9]＿＿＿＿＿＿**の戦い**◀1756- [10]＿＿＿＿＿＿**戦争**。(フレンチ・インディアン戦争)

：[11]＿＿＿＿＿＿率いる英軍が、仏・[12]＿＿＿＿＿＿**太守**を破る。

⇨英東インド会社は、[13]＿＿＿＿＿＿**権**を得る。



1767- [14]＿＿＿＿＿＿**戦争**：英が南インドを征服。

1775- [15]＿＿＿＿＿＿**戦争**：英がデカン高原を征服。

1814- **ネパール征服**：英の保護国とする。

1815 [16]＿＿＿＿＿＿**併合**：ウィーン会議で蘭から。

1845-49 [17]＿＿＿＿＿＿**戦争**：**パンジャーブ地方**を併合。

☆[18]＿＿＿＿＿＿(ザミンダール)**制**：ベンガルの地主に徴税義務。

☆**ライヤットワーリー制**：南インドでは農民(ライヤット)に納税義務。

☆[19]＿＿＿＿＿＿：商業的大農園。茶・藍(あい)・アヘン栽培。

☆**インド貿易の自由化**:産業資本家が要求。東インド会社の[20]＿＿＿＿＿＿**廃止**(13)⇒インドでの[21]＿＿＿＿＿＿**停止**(33)

⇨英製品の流入で手工業は壊滅。重税による農村の荒廃。

1857-インド大反乱:傭兵([22]＿＿＿＿＿＿)反乱に民衆が合流。

⇨**デリー占領**⇨ムガル皇帝バハードゥル=シャー2世を擁立。

⇨英軍の反撃、皇帝逮捕、ビルマ流刑⇒ムガル帝国滅亡。

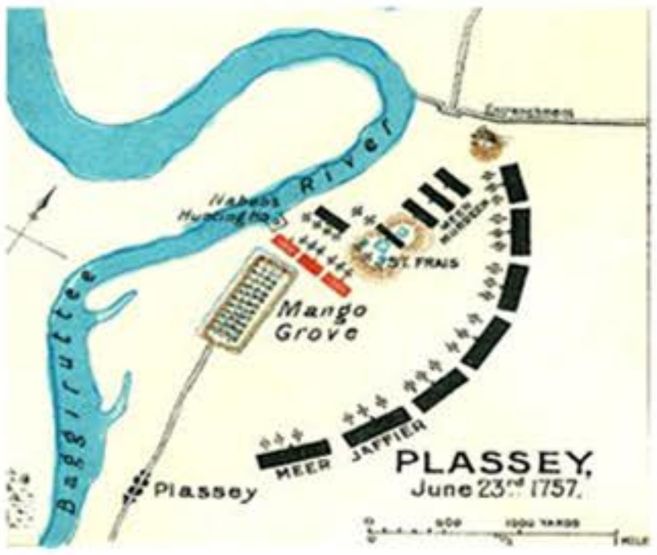
⇨**東インド会社を**[23]＿＿＿＿＿＿(58)。英本国の直接統治へ。

1877- [24]＿＿＿＿＿＿**帝国**(実質的には1858-)

- 英首相[25]＿＿＿＿＿＿が**ヴィクトリア女王**を皇帝に擁立。
- **直　轄　領**:カルカッタのインド総督が直接統治。
- [26]＿＿＿＿＿＿:総督が550の藩王(マハラジャ)を通じて間接統治。

インドの植民地化

1 アウラングゼーブ
2 ボンベイ
3 マドラス
4 カルカッタ
5 ポンディシェリ
6 シャンデルナゴル
7 カーナティック
8 オーストリア
9 プラッシー
10 七年
11 クライヴ
12 ベンガル
13 徴税
14 マイソール
15 マラータ
16 スリランカ(セイロン島)
17 シク
18 ザミンダーリー
19 プランテーション
20 インド貿易独占権
21 商業活動
22 シパーヒー
23 解散
24 インド
25 ディズレーリ
26 藩王国





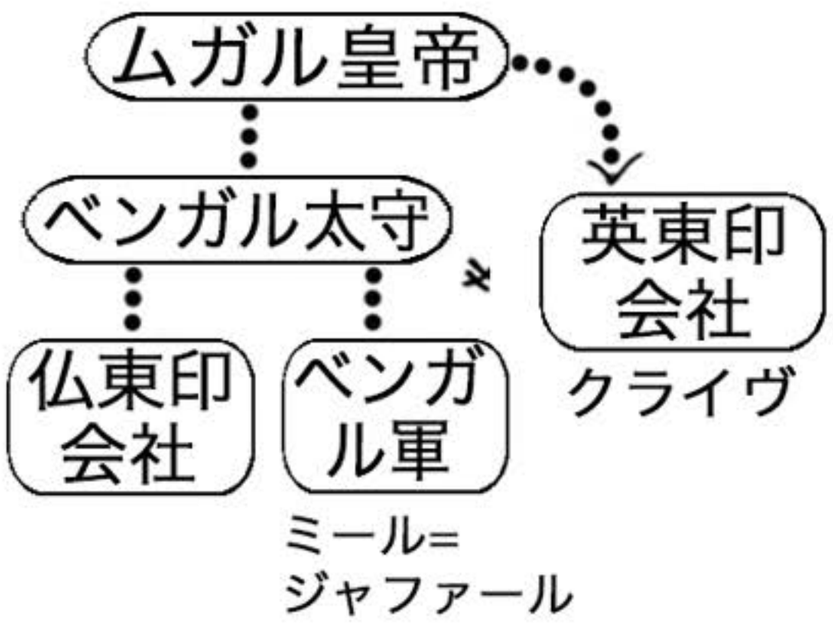
▲ クライヴと会見する
ミール=ジャファール

プラッシーの戦い(1757)後



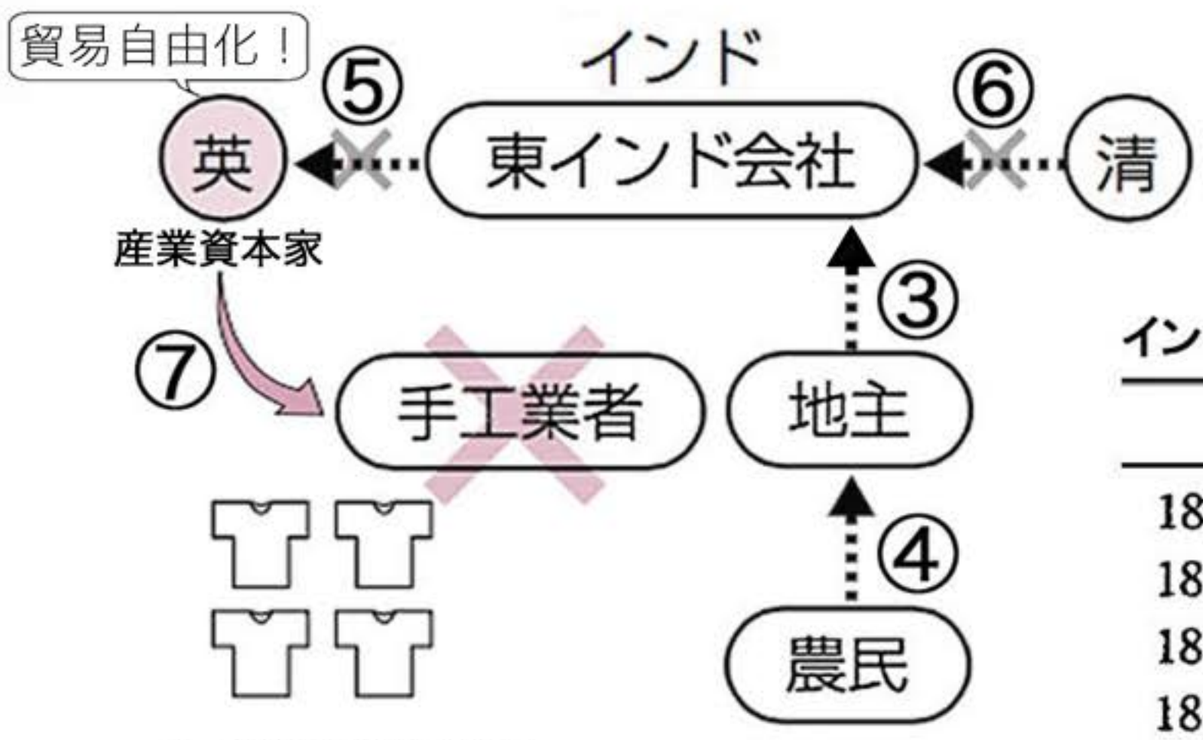
(解答)
① インド貿易　② 中国貿易
③ 徴税　④ ザミンダーリー

プラッシーの戦い(1757)



① ＿＿＿＿＿＿独占権 } エリザベス1世
② ＿＿＿＿＿＿独占権 } の特許状(1600)
③ ＿＿＿＿＿＿(ディーワーニー)権：ムガル皇帝から獲得(1765)
④ ＿＿＿＿＿＿制：ベンガルの地主制
(南インドのライヤットワーリー制では農民(ライヤット)から直接徴税)

インド貿易の自由化(1813)後



問 インド大反乱にいたるイギリスのインド政策の展開について、以下の語句を用いて、120字以内で説明しなさい。
徴税権　貿易独占権

⑤ インド貿易の自由化(1813)
⑥ 中国貿易の自由化(1833)
⑦ 機械製綿布の流入

インドの主な貿易相手国と貿易収支　(単位　百万ルピー)

	a	b	c	d	その他
1828年度	18.9	21.0	4.8	4.5	8.5
1834年度	13.9	31.4	3.2	2.7	7.6
1837年度	15.1	40.6	7.2	3.0	4.9
1839年度	25.4	10.1	5.7	9.0	12.8
1850年度	−2.4	53.6	1.8	2.2	10.7
1860年度	−57.1	102.5	6.4	5.6	37.4

イギリス東インド会社の業務

	いつから	いつまで
インド貿易独占権	[1]＿＿＿＿＿＿の特許状(1600)による。	1813　英議会が廃止([3]＿＿＿＿＿＿の要求)
中国(茶)貿易独占権		1834　英議会が廃止。
インドでの徴税権(インド統治権)	[2]＿＿＿＿＿＿の戦い(1757)後、ムガル皇帝から(1765)※	[4]＿＿＿＿＿＿(1857−)の責任を問われ、1858　東インド会社[5]＿＿＿＿＿＿。

[1]エリザベス1世　[2]プラッシー　[3]産業資本家　[4]インド大反乱(シパーヒーの反乱)　[5]解散

※ベンガル太守を継いだミール=カーシム（ジャッファールの甥）はイギリスから離反し、ムガル皇帝を擁して挙兵したが、ブクサールの戦い(1765)で敗北。ムガル皇帝は、ベンガル・ビハール・オリッサの徴税権をイギリス東インド会社に与えた。

インドの独立運動

1877-1947 **英領インド帝国**(首都:カルカッタ⇒デリー)

☆インド民族主義(ナショナリズム)の覚醒…民族資本の成長、英語の公用語化。

⇨寡婦殉死(サティー)の廃止運動(ラーム=モーハン=ローイ)、富の流出論(ナオロジー)。

1885 **ボンベイに**[1]＿＿＿＿＿＿設立:総督の諮問機関。

⇨インド最大の政治結社[2]＿＿＿＿＿＿の成立。

⇨[3]＿＿＿＿＿＿ら過激派の台頭で、反英姿勢を強める◀

1905 総督[4]＿＿＿＿＿＿の[5]＿＿＿＿＿＿**令**。

:反英運動の根拠地を2州に分け、宗教対立をあおる。

1906 国民会議派[6]＿＿＿＿＿＿**大会**:**4綱領**を採択。

①英貨排斥(ボイコット) **②国産品愛用**([7]＿＿＿＿＿＿)

③自治([8]＿＿＿＿＿＿) **④**[9]＿＿＿＿＿＿

1906 [10]＿＿＿＿＿＿設立:親英的ムスリム結社。

⇨大戦中、オスマン帝国の呼びかけに応じ、反英に転ず。◀

1906 ラクナウ協定:会議派と連盟が、自治権要求で協調。

⇨英(インド担当相モンタギュー)は戦後のインド自治を約束(17)。

1919 [11]＿＿＿＿＿＿**法** 総督独裁下の形式的自治。

1919 [12]＿＿＿＿＿＿**法**:反英運動弾圧、裁判なしで投獄。

⇨[13]＿＿＿＿＿＿**事件**:英軍が市民集会に発砲。

⇨1500人が死傷。各地で反英暴動。ガンディー帰国。

1919- **非暴力・不服従運動**([14]＿＿＿＿＿＿)

:[15]＿＿＿＿＿＿が指導。大衆動員でストライキ、英貨排斥。

⇨国民会議派のなかで、完全独立を主張する左派が台頭。

1929 国民会議派[16]＿＿＿＿＿＿**大会**:[17]＿＿＿＿＿＿が議長。

⇨英からの**完全独立**([18]＿＿＿＿＿＿)を決議。

1930 ガンディーの[19]＿＿＿＿＿＿:専売への抗議。

⇨第2回**非暴力・不服従運動**:英貨排斥、徴税拒否。

1930-32 [20]＿＿＿＿＿＿**会議**:英(マクドナルド内閣)がロンドンで開催。

⇨ガンディーとの妥協をはかるが決裂⇨再び運動を弾圧。

35 [21]＿＿＿＿＿＿**法**:州政府に責任内閣制を導入。

⇨ベンガル・パンジャーブなどでムスリム連盟の州内閣が成立。

40 ムスリム連盟が**パキスタン**の分離独立を要求。

1875 スエズ運河買収。

1899- 南ア戦争。

1904- 日露戦争。



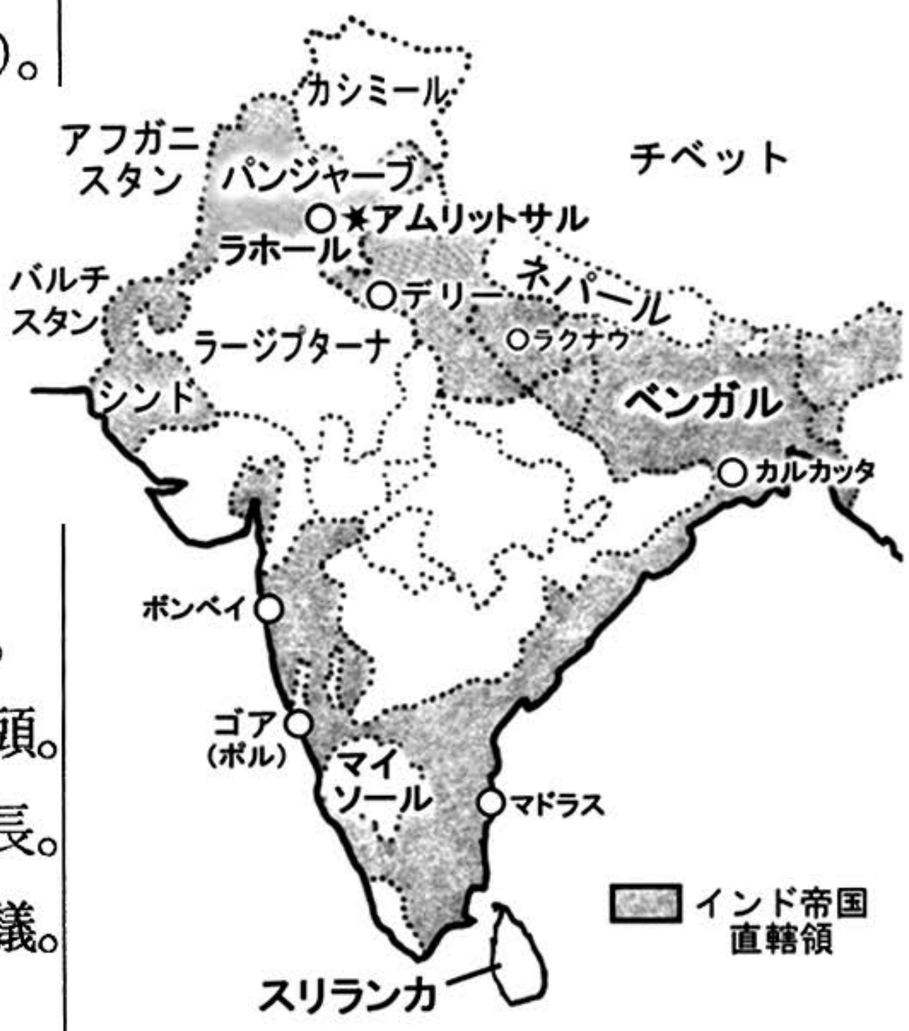
ティラク



ネルー

1906 英露協商。

1914- 第一次世界大戦。



インドの独立運動

1 インド国民会議
2 国民会議派
3 ティラク
4 カーゾン
5 ベンガル分割
6 カルカッタ
7 スワデーシ
8 スワラージ
9 民族教育
10 全インド=ムスリム連盟
11 インド統治
12 ローラット
13 アムリットサル
14 サティヤーグラハ
15 ガンディー(ガンジー)
16 ラホール
17 ネルー
18 プールナ=スワラージ
19 塩の行進
20 英印円卓会議
21 新インド統治

日露戦争後のインド

英国 ⋯⋯ インド総督

1. _____令
(1905)で対立を煽れ！


カーゾン

1906-
全インド=ムスリム連盟
少数派の権利を守れ！

1906 2. _____大会
国民会議派


ティラク

3. _____(自治)
4. _____(国産品愛用)
英貨排斥、民族教育





▲ サティ（寡婦殉死）とラーム=モーハン=ローイ



問 日露戦争後のインドの独立運動の展開について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。
ベンガル　スワラージ

第一次大戦後のインド

5. _____法:形だけの自治。
6. _____法:反英運動を弾圧。

英国 ⋯⋯ インド総督

独 ⚔ 英国

7. _____事件
(1919)

オスマン ⋯ ムスリム連盟

英国に対しジハードを！

カリフ擁護！(ヒラーファト)

国民会議派

1919 8. _____大会


ネルー

ガンディーの運動


ガンディー

完全独立！
9. (　　)

非暴力・不服従
10. (　　)
塩の行進(1930)



▲ 塩の行進(1930)

(解答)
5.インド統治
6.ローラット
7.アムリットサル
8.ラホール
9.プールナ=スワラージ
10.サティヤーグラハ



▲ インド皇帝ヴィクトリア

問 第一次世界大戦後のインドの独立運動の展開について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。
サティヤーグラハ
新インド統治法　ローラット法

インド帝国

A インド統治法(1919)
B 新インド統治法(1935)

